

## 保育の質の探求② 「もうひとつのおうち」

～ 時間外保育の在り方 ～

今 泉 良 一

日本児童教育専門学校

## The study of childcare quality ② 「another house」

～ ways to over time child care ～

Imaizumi Ryoichi

Japan Juvenile Education College

**要旨：**本稿の目的は、時間外保育における実践事例をもとに、保育者に求められる養護的配慮について考察し、「保育の質」について探求することである。『保育所保育指針』（2017）には、養護に関する基本的事項として「保育所における保育全体を通じて、養護に関するねらい及び内容を踏まえた保育が展開されなければならない」と明記されている。保護者の就労時間によっては、子どもの保育時間も長時間となり、より丁寧な養護的配慮が求められる。いわゆる時間外保育では、家庭的な環境の中、一人一人に目を向けていくことはもちろん、より親密な関係づくりや、日中以上に子どもの内なる声に耳を傾けることなどが求められるのではないだろうか。心の安定、満足が図られて、はじめて園生活を十分に楽しむことができるのではないかと考える。

**キーワード：**保育、時間外保育、保育の質、養護的配慮

### 1. はじめに

筆者は、保育の質の探求①として、2歳児の保育を通して考える保育の総合性について考察した。生活のあらゆる面に目を向けていくこと、そのようなところに「保育の総合性」に通ずるポイントが挙げられるとまとめた。

『保育所保育指針』（2017）には、養護に関する基本的事項として「保育所における保育全体を通じて、養護に関するねらい及び内容を踏まえた保育が展開されなければならない」とされ、情緒の安定のねらいの一つとして「一人一人の子どもがくつろいで共に過ごし、心身の疲れが癒されるようにする」と明記されている。保護者の就労時間によっては、子どもの保育時間も長時間となり、より丁寧な養護的配慮が求められる。

本稿では、筆者が保育士として勤務していた時の実践記録をもとに、時間外保育の在り方について考察し、保育の質の探求につなげていくことを目的とする。なお、勤務園の概要は、関東近郊の保育施設（0～5歳児・定員170名）で、実践記録は平成28年度の保育日誌によるものである。また、当時の記録に準じて、現在進行形の表現となっている。

### 2. 保育のはじまり

保育園の一日は長い。私の勤務する園では平日朝七時から夜七時半まで、土曜日も朝七時半から夜六時半まで時間外保育を行っている。家庭で生活している時間よりも園で生活している時間の方が長い子もいる。

早番出勤の日、玄関の鍵を開け、しーんと静まり

返った園内に入る。各保育室の窓を開け、換気を行う。一保育がはじまる。

ブロックや積木を設定し、あそびを用意していると、一番目の子どもが登園してくる。A子は三歳。登園後は洗濯し終えた雑巾を各クラスに配ることを毎日の日課として楽しみにしている。このように早朝保育の受け入れをしていると、思い出すのは保育者一年目のことである。

### 3. Kくんとのできごと

私は保育士資格取得後、時間外保育担当保育士としてスタートした。はじめての保育現場に毎日無我夢中だったが、子どもたちとの生活は楽しくとても充実していた。

Kくんは年中児。保育園に入園する前は幼稚園に通園し、幼稚園退園後も週一回は以前の幼稚園のサッカー教室に通っていた。

四月、新入当初のKくんはおとなしく、いわゆる「おりこうさん」で、まったく手がかからなかった。五月の半ばを過ぎた頃になって、朝の登園を嫌がるようになり、早朝保育の受け入れ時には身勝手な行動や、乱暴な振る舞い、汚いことばが目立つようになってきた。ある日の延長保育の時間。お絵かきをして遊んでいる子にちょっかいを出したり、暴れまわったり、注意すると「うるせー、じじい」とことばを放った。「Kの話、聞くから」と、だれもないテラスに腰掛けて、Kと一対一で話をした。最初は暴れていたのに、ぎゅっと抱きついてきて、離れない。「どうしたー??」と聞いても、「んーっ」と言いながら私の胸に顔をうずめるだけ。

一どのくらい時間が経っただろうか。Kくんが、ぼつりぼつりと自分のことを話しはじめた。その中で分かったことは、

「前の幼稚園は大嫌いだった」

「前の幼稚園は先生が怖かった。」

「サッカーもほんとはやめたい」

「今の保育園と、りょういちせんせいは好き」ということだった。保護者の方にも話をうかがうと、Kくんが通っていた幼稚園は、過密なカリキュラムで、そのスケジュールをこなすために（こなすためには、卒からはみ出す子を出さないように）、抑圧、禁

止の連続だったとのこと。教師にも余裕がなく、甘えたり、じっくり関わることができなかったのではないか、保育園では良一先生に素直に関われるみたいですね、と話して下さった。

四月は、口数も少なく、おとなしかったKくんが、少しずつ自分の気持ちを表現することができてきたのかなと思った。指示待ち、受け身姿勢だったKくん。「いやだ」と拒否することを我慢してきたKくん。でも少しずつ、自分の気持ちを保育者に伝えようとしてくれて嬉しく思った出来事であった。

年中担任の先生にも相談すると、「日中はそんな姿を見せたことが無い」と驚いていた。Kくんの行動が乱れるのは、決まって夜六時頃が多い。延長保育が始まる頃であった。Kくんが見せる二つの異なる姿。部屋で暴れたりした時、場所を他に移し変えて、一対一で話をすると、落ち着く。そんなことが何回か続いていた。

### 4. 十月のある日

十月、運動会も終わり子どもたちの姿も生き生きし、日の暮れるまで園庭でかけっこやリレー、遊戯を楽しんでいた。しかし、Kくんの表情はあまりよくなかった。お母さんの仕事が忙しくなって、ファミリーサポートセンターから代わりの人がお迎えに来る日が続いていた。Kくんの笑顔がどんどん少なくなり、いらいらすることが多くなった。保育者や友だちに当たることもしばしばあった。

ある日の夕方、ホールに移動する時になってもテラスをうろついて、暴れたり、泣いたりすることがあった。ホールには保護者が続々と迎えに来て、他の子どもたちは嬉しそうに帰っていく。その様子を見ていたくなかったのだろうか。

園には、Kくん一人になった。

Kくんと話をした。

Kくんをひざの上に乗せてテラスに座り、「昨日何のテレビ見た?」とか「Kくんは、食べ物では何が一番好き?」とか、当たり障りのない話をした。次第にKくんの表情が和らいできた。

「じゃあ、今日は特別! みんなに内緒の遊び、先生としよっかー?」と声を掛けると、Kくんは驚いたように「なになに??」と、興味を示してきた。その日、みんなが帰った夜の園庭で二人で遊んだ。月

灯りとテラスの電灯と園庭前の街路灯のもと、誰もいない園庭で二人で追いかけてっこをしたり、「グリコ」で遊んだ。「もし園長先生にばれたら怒られちゃうかなー??」と二人で笑いながら。

「先生と、Kの二人だけの秘密！」と言うと、Kくんも「オレと、せんせいのひみつな！」と、「秘密の共有」を嬉しそうにしていた。

Kくんをひざに乗せてブランコと一緒に乗った。空を見ながら「ほし、でてないかなー?」「うちゅうまでとんでいきそうー」と、Kくんは嬉しそうにしていた。「もうほしぐみ(年中クラス)なのに、先生のひざに乗ってるの、恥ずかしいよー」とKくんが話すので、「いいんだよ?ほしぐみでもなんでも、抱っこしてほしい時はあるでしょ?だからいいんだよ?」と言うと、満面の笑みで安心していた様子だった。

その時、「K、遅くなってごめん!」とKくんのお母さんが迎えに訪れた。Kくんは、一目散にお母さんに駆け寄り、抱きついた。延長保育時間を大幅に過ぎた時間であったが、どんなに時間が遅くとも、お母さんのお迎えは嬉しいもの。私の心もホッとしました。

今日も一番に登園したA子は、いつもと変わらず洗濯し終えた雑巾を各クラスに配りに行った。まだ誰も登園していない中、まるで自分の家のように。私は主任保育士として、主活動も担当するが、時間

外保育を担当する日は特に子どもの様子に目を向ける。時間外保育士だった当時を思い起こしながら、一人一人の子どもが生き生き生活しているか、不安定な子や日中と様子が違う子はいないか、子どものありのままの姿を受け止めながら、関わりを深めている。

## 5. まとめと今後の課題

私の保育の原点である時間外保育。

保育に求められる「養護的配慮」。これはすなわち保育園は「もうひとつのおうち」ということではないかと感じる。早朝保育や延長保育のようないわゆる時間外保育は、日中の一斉保育とは少し異なる要素を持っている。家庭的な環境の中、一人一人に目を向けていくことはもちろん、より親密な関係づくりや、日中以上に子どもの内なる声に耳を傾けることなどが求められるのではないだろうか。心の安定、満足が図られて、はじめて園生活を十分に楽しめることができるのではないかと考える。

現在は高校生になっているであろうKくん。元気に明るく生活しているだろうか。いつの日か、成長したKくんに再会できることを楽しみにしている。今後も時間外保育における養護的配慮に着目し、「もうひとつのおうち」としての保育園、保育者としての役割を考察していきたい。

受付日：2018年3月7日

